

なぜ今「国産AI」が必要なのか？——投資遅延の現実、海外リスク、そして日本の勝機

課題とリスク：なぜ出遅れても国産AIが必要なのか



資金量と汎用モデル開発力では米中に圧倒的差をつけられているのが現実。



2026年6月、米Anthropic「Claude Fable 5」が全世界で一時的停止

米政府の輸出管理指令により海外モデル依存のサプライチェーンリスクが表面化。



国産AIの核心は「正面勝利」ではなく「自律性と交渉力(BATNA)の確保」

海外アクセス遮断に備える保険であり、自社データ保護と規約交渉の土台となる。

解決策と戦略：どこで勝ち、どう実装するか



強みである「フィジカルAI・製造現場」へ最大1兆円の国費支援

産業用ロボット設置数世界2位の現場データを活かし、44社連合「Noetra」等で物理基盤モデルを構築。



「特化型・軽量・国内完結」モデルの実装とガバメントAI「源内」

1GPUで動くtsuzumi 2やPLaMoなど、行政・企業の実務に適合した国産LLMの採用が拡大。